

## ○第2回廃棄物減量等推進審議会における意見等の要旨・趣旨

### 意識改革に向けた啓発事業の必要性について

- ・リサイクル研修ステーションを活用した環境教育は非常に重要である。
- ・啓発という精神論よりもむしろ実際現場に行って実践するという発想が大切である。
- ・市民がお互いに競争意識を持つような発想でデータを「見える化」し、前向きに競争できるようなシステムができればよい。
- ・市民にお願いするためには、市の職員が、職域を超えて、率先した減量化に向けた行動を示すべきである。

### ごみの有料化に向けた課題について

- ・有料化によって資金の土台が作られれば、長期的な形での環境教育によってごみは減っていく。また、ごみを単に減らすのではなく、財源を活用して長期的に別の施策で利用していくものである。
- ・有料化が実施されると、同時に不法投棄の防止策も平行して考えておく必要がある。

### 更なる減量化に向けた実践活動について

- ・田畑を持たない人でも契約を結ぶことで、生ごみを捨てる場所をお互いに共有できるような仕組みが実現できないか。
- ・不法投棄の多いところで、生ごみの堆肥化した花を植えていく。木津川市には、道路にごみの減量による季節の花が咲いているとなれば、街全体のイメージアップになる。